

平成 29 年度 魚沼地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 議事録

と き：平成 29 年 10 月 24 日（火）14 時 00 分から 17 時 00 分まで

ところ：南魚沼市図書館 多目的室

1 参加者

魚沼地域共生ビジョン懇談会委員（以下、各市町五十音順）

○魚沼市

枝村和枝委員、小林栄一委員、星麻衣副会長、森山右文委員

○湯沢町

井熊充委員、貝瀬健太副会長、高野理香委員、高橋和成委員（欠席）

○南魚沼市

井上智明委員、川島亜紀子委員（欠席）、関聡会長、樋口昌敏委員

各市町職員

●魚沼市

事務局：櫻井企画政策室主事

●湯沢町

事務局：笹田企画政策課主事

●南魚沼市

清水総務部部参事

事務局：片桐企画政策課長、宮崎企画主幹、中島行革主幹、櫻井主事

傍聴人 なし

2 議事

【1】開会（進行：片桐企画政策課長）

【2】あいさつ（関会長）

本日は、共生ビジョン懇談会にお集まりいただき誠にありがとうございます。昨年 10 月に共生ビジョンが策定されてから 1 年が経ち、事業の進捗状況の確認、また、新たな提案を取り入れていきたいということで、皆様から色々な意見をいただきたいと思えます。

民間企業の多くは新卒採用が終わった頃かと思いますが、最近は人手不足の傾向にあり、人材の確保が急務と言えるほど厳しい状況にあります。東京への人口流出によりこの地域が衰退していくのは、止めなければならない事態です。二市一町が少しでも住みやすい地域になるため、我々民間の視点から、意見を出して、この会議が有意義なものになることを申し上げて開会のご挨拶とさせていただきます。

【3】議事（進行：関会長）

（1）定住自立圏共生ビジョン変更案について〈事前資料〉（説明：櫻井主事）

会長 [資料 1] 検討中の環境パンフレット作成事業について、地域の自然や文化を教育していくというのは必要だと思う。就職にも繋げるという面で、地域について知ってもらうという

のは大事なことなので、自分の考えを持ち出した年代の子供たちに対して伝えるべき。ぜひ学校と連携をしてほしい。

また、スポーツ大会の誘致について、連携をしてもっといい案が出てきてもいいのでは。観光イベントとしての面だけでなく、大会を見る人が実際にそのスポーツに興味を持って始めたり、その受け皿として新しい大会が出来たりするなど、地域住民の全体的なスポーツ志向に繋がっていくことが期待できる。知恵を絞り、二市一町で協力すれば大きな大会誘致により近づけていけると思う。

副会長) 環境パンフレットの事業について、一旦見直しを行って新たに別の事業を検討するという事なので、ぜひお願いしたい。パンフレットという形ではなく、違う視点を持って作ってみてもいいのでは。資料1・資料2に載っている公民館講座の相互利用事業については、もっと情報発信の仕方について検討を。

委員) 環境パンフレットの話だが、環境といっても範囲はとても広い。作るのであれば、自然環境、ごみの分別など、テーマごとに一つずつ作っていった方が良い。公民館活動についてだが、現在魚沼市の地域コミュニティ協議会は市の公民館講座とタイアップしながら活動をしている。連携事業によってタイアップの対象を他市町にも広げたいと思っている。

会長) [資料1]木質バイオマス発電事業について、今は送電線の余力が無いということであるが、国の政策も自然エネルギーを重要視している。これから政策が変わっていく可能性を見越して、準備だけは進めるべき。UIJ ターン就職の事業について、二市一町で必ず何かしら政策を立てていただきたい。何をしたいかわからない状況でとりあえず東京へ出るとい事態を防ぐ対策が必要。圏域の各学校で、首長が生活環境についてプレゼンし、続いて地元企業の社長が自社についてプレゼンをするという機会を設けたらどうか。実際に地域の祭りで職業体験コーナーを設けたが、とても反響があった。就職イベントについても、連携してやるべきだと思うので、ぜひ検討いただきたい。

委員) 木質バイオマス発電について、送電線容量を増やすために多額の費用を要するのであれば建設は検討すべき。だが、仮に建設を行う場合でも、発電量を抑えた運転を行えばいいのではないか。

委員) [資料1]UIJ ターン就職について、現在の情報発信は不足している感じがする。都会にからこちらにやってくる人は、質の高い職を求めているはずなので、そうした部分を積極的に広報していく必要がある。情報発信の仕方を引き続き検討いただきたい。木質バイオマス利活用事業のペレットストーブの件だが、補助金を各市町で出しているにも関わらず、普及は進んでいないと思われる。チップを生産している会社が生産過剰とならないように、もっと積極的にペレットストーブを進めていける具体的な取組がほしい。

委員) [資料2]広域ごみ処理施設建設について、用地選定が平成29年度にずれ込んでいるが、

平成 35 年の供用開始を目指しているということから、これに向けてどの位の時間がかかるか。

事務局) 場所が決まらなると環境アセスメントができない。環境アセスメントには大体 3 年くらいかかるようになっている。これを踏まえた上で、共生ビジョン上のスケジュールでは、平成 32 年度に建設に入ることになっている。スケジュール通りにいけば平成 35 年度からの稼働は可能。

会長) 広域ごみ処理施設の件について。二市一町で作る大きな施設になるので、余熱の利用を考えるべき。特に市営のプールについて、南魚沼と魚沼はそれぞれ築年数が相当経ったプールを有している。利便性の良い場所、できれば C C R C の関係もあるので個人的には大和地域がいいと思うが、焼却施設の余熱を利用したプールを設置すれば、光熱費も人件費も軽減できるのではないか。

委員) プールもそうだが、体育館、陸上競技場などについても、主要なものを二市一町のどこかに置いて共有できるようにした方が良くと思う。ちなみに魚沼市では今後新庁舎を作るに当たって今ある庁舎の利活用を検討している。

会長) 人口規模に見合わないプールが各地域に点在しているのは効率が悪い。どこか一か所に、例えば焼却施設の余熱を利用した 50M の屋内プールを作れば、二市一町でのスポーツ大会誘致事業にも繋がる。

委員) [資料 2] 斎場相互利用事業に関して、炉だけではなく、墓地についても共用できるか検討を。

委員) [資料 2] 路線バスの支援事業について。現在、魚沼市内から基幹病院に行くためには乗り換えが必要となっており、乗り換え地点までそれぞれの地域でコミュニティバスを出すなどして対応している。利便性の調査等を行い、検討していただきたい。

会長) [資料 1] 手話講座の合同開催について、各市町の手話の需要は。

事務局) 具体的な数値は把握していないためこの場で示せないが、各市町で需要についてすり合わせを行い、今後の検討としていく必要があると感じている。

会長) 手話の需要は規模こそ大きくないと思うが、小人数のものこそ連携により効率的となり、新たな交流も生まれる。せっかく二市一町で話し合っただけで考えたことなので、協力して欲しい。

委員) [資料 2] 婚活支援事業について、婚活パーティーという名前でやると、出にくいと感じ

る若い人が多い。婚活パーティーという方法も一つの手かとは思いますが、周囲にはグループ活動を通じて結婚するカップルが多いので、そのような気楽に参加できる場を提供することも考えた方がいい。

事務局) サークル活動ということであれば、南魚沼市では若手の職員が参加する「人口減少問題プロジェクトチーム」で、市内で活動しているサークルやコミュニティ等の活動をSNSで紹介する事業をしている。ただ、その中でサークル活動等が直接結婚に結びついたという声は聞こえてきていないのが現状。

会長) 登山が女性の間で流行している。同じような趣味を持っているとカップルとして成立しやすいと思うので、山登りをする女性のツアーに男性を引き合わせる等、流行に合わせたイベントを計画することも有効だと思う。

委員) いきなり婚活イベントに出てもどうすればいいかわからず、自分から積極的になれない人もいるはずなので、連携事業にセミナーが加わったことはいいことだと思う。

委員) [資料2]職員の人材育成について、連携事業をより具体的に検討し、実現するのであれば、現在のWG会議の開催間隔では十分でない印象を受ける。WGごとに自由に集まり、自由に活発な意見交換ができるようになれば、より事業は進んでいくと思う。各市町担当のスケジュール調整等が難しいのは承知しているが、そうした体制作りについて検討をお願いしたい。

副会長) [資料1]共同広報事業について。各事業において共同で広報を行うというのは分かったが、共生ビジョンが公表されてから、あまり定住自立圏の情報を目にするのがなくなってきた。せっかく二市一町でやっているのだから、コンスタントな情報発信を意識して進めてほしい。

会長) [資料1]UIJ ターン促進事業について。具体的な内容を検討中ということだが、告知やPR等の面で、圏域の連携、ひいては都心の企業等との連携を進めていただきたい。

会長) [資料2]職員の人材育成事業に関して、都心の自治体職員との人事交流を行うという考えはあるか。

事務局) 各市町で県や国との人事交流を行っているが、基礎自治体間の人事交流については現在行っていない。仮に行うとした場合、「何を学ぶか」についてより明確な目標が必要。ただ、圏域職員の人事交流は考えていきたい。

会長) ゆくゆくは二市一町と首都圏自治体間の交流を提案したい。こちらの人は東京に人が集まる理由を肌で体感し、東京の人は地方が何に困っていてどのような政策を立てているのか

知ることができる。

委員) [資料5] 共生ビジョン掲載事業の予算について、各自治体の予算計上の方法は。

事務局) 予算時期にそれぞれの市町で予算計上される。企画部門が予算を一つにまとめて再度配分するといった流れにはなっていない。

委員) 担当課がある程度権限を持った状態で予算の確保ができていないと事業を進めるのは難しい。各市町の意見交換の中で予算獲得のありかたについても相談すべき。

地域人口増のカギは子供たちが握っている。故郷の偉大さや良さについて教えることが大切だと思うので、その点を念頭に置いて各事業内容の検討をお願いしたい。

委員) 教育に力を入れるのは大事。就業について学ぶ機会を積極的に取り入れていただきたい。圏域の中で参加企業を募るのもいい。

委員) 定住人口を増やすために必要なのは仕事。観光客を相手にした新しい仕事を作るしかない。持続性があるものにするためには、リピーターが増えるような仕組み作りが必要。

会長) [資料4] 観光窓口事業の成果指標について、現状 996 万人から平成 32 年の目標値が 1,000 万人になっているが、ここ数年の RESAS を見ると、圏域全体において観光客は増えている。国内客も、海外客も増えてきていることが確認できる中で、このような目標値を設定するということは、事業として「何もしない」というのと同じではないか。せめて 1 割増を目指すような、もう少し高い目標を掲げてほしい。

副会長) 教育段階での就業体験は大事。生徒の興味や関心が増える貴重な機会となる。高校生に対する説明会もいいが、進学先を選択する中学生の段階で就業について考える機会を連携して考えていけたらいいと思う。

会長) 小中学生、高校生が地元の仕事について話を聴いたり、体験したりすることは、将来 UIJ ターン者を増やすに当たって大変有効。二市一町で連携できる所が沢山あると思うので、民間企業を巻き込んで連携を進めてもらいたいと思う。

委員) 北里大学では地域の中学生に医療系、特に看護師の体験をしてもらうため、魚沼市、南魚沼市の中学校の生徒に対して職場体験の機会を設けた。地域の病院に就職してもらう流れを作るべくこうした取り組みを行っていることを地域や自治体にも理解いただいた上で、地元就職の取組を進めていただきたい。

委員) 地域公共交通について。買い物難民の問題等もあり、生活者として心配。バスで十分にカバーできない所があれば、乗り合いタクシーについても検討するなど柔軟な対応を願う。

会長) 乗り合いタクシーは他地域での成功事例もある。飲食店の活性化にも繋がるので是非検討してもらえたらと思う。

事務局) 今回提示した共生ビジョン変更案について多くの提案や意見をいただいた。今後の連携事業に当たり、参考にすべきこととしてワーキンググループに提示したい。特に観光連携事業の成果指標については再度整理する。その他、本日示した変更案について確認いただき、承認願う。

会長) 変更案についてご意見ご質問あるか。なければ共生ビジョン変更案について賛成の者は挙手を願う。

一同) (全員挙手により賛成)

(2) 次年度以降の進め方について<事前資料> (説明: 櫻井主事)

副会長) 資料8「今後の方針」と「進捗状況」の評価段階が共に ABC~となっている。同じアルファベットにしない方が見やすくなると思う。

事務局) 他のシートとの整合性を考えた上で今後の検討としたい。

委員) 「今後の方針」欄には、各事業で今年度何をやるのか、現共生ビジョンの最終年度となる平成 32 年度にはどういった状態になっているのかを記載した方が状況確認しやすいと思う。

事務局) 進捗状況については、一旦資料1でまとめており、これを数値目標と合わせて見られる形にしたものが資料8ということで考えている。見やすさの面でどのような記載を入れるべきか検討する。

【4】 その他 (説明: 片桐企画政策課長)

事務局) 発言を要約した形で議事録を作成し、本日出席の会長、副会長に内容を確認していただいた上で、変更後の共生ビジョンと共に市公式ウェブサイトで公表する。

一同) 了。

【5】 閉会 (星副会長)

皆様お疲れさまでした。約1年ぶりの共生ビジョン懇談会であったため、私自身、事前に配付された資料を読んで、現状を把握するのに少し時間がかかりましたが皆様はいかがだったでしょうか。二市一町で住みよい地域を作るため、たくさんの意見が出てとても良かったのではないかと思います。本日は長時間の会議となりましたが、ありがとうございました。

(17時00分閉会)